

企業で活躍する 定住外国人ロールモデル

活躍事例集



静岡県経済産業部就業支援局



静岡県経済産業部就業支援局
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
電話番号 054-221-2334

はじめに

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や雇用情勢の改善により、人材不足が課題となる中、地域経済を持続的に発展させるために、女性、高齢者、外国人など、多様な人材の活躍が期待されています。

本県には、身分又は地位に基づく在留資格（*）で在住する日系ブラジル人等の外国人が多いという地域特性があります。これらの方々は、在留資格上で就労制限がないため、日本人と同様に働くことができます。

現在は、身分又は地位に基づく在留資格で在住する方の多くが派遣や請負社員として働いていますが、外国のルーツを活かしたり、言語や文化の違いを越えたりして、企業で正社員として活躍している方が増えています。

本冊子では、日本の学校を卒業された方や大人になってから来日された方のこれまでの軌跡と企業で活躍しているロールモデルとなる姿を紹介しております。

外国人の皆様が自分の将来を考えるヒントが詰まっております。ぜひ、自分の将来を考えるきっかけとしてください。

また、企業の皆様には、頑張っている外国人がたくさんいることを知っていただき、採用の参考にしていただければと思います。

* 身分又は地位に基づく在留資格とは

一定期間にわたって居住が認められており、在留資格において就労制限がなく、日本人と同様に働くことができます。

永住者	永住許可者（戦前から居住する朝鮮、中国等出身者及びその子孫を含む）
日本人の配偶者等	日系2世、日本人の配偶者・子・特別養子
永住者の配偶者等	永住者・特別永住者の配偶者及び日本で出生した子
定住者	日系3世、中国在留邦人、第三国定住難民等

目次

○ 鈴木 アリネ 由香里さん（スズキ株式会社）	2
○ 吉田 ガブリエラ さゆりさん（浜松いわた信用金庫）	4
○ 青木 百合子さん（株式会社アイデックス）	6
○ 馬場 海凧さん（株式会社アイゼン）	8
○ ガブリエル リベロ レイテ 辻野さん（五條製紙株式会社）	10
○ 立花 チアゴ ミツオさん（有限会社兼子鉄工所）	12
○ ルーダス リベロ エドアルドさん（おかやま内科デイサービス）	14
○ 土谷 レオナルドさん（浜松市役所）	16
○ 沖野 宏施さん（フォレスト株式会社）	18
○ ニャムジャウ ムンフバトさん（有限会社ヤナザイ）	20
○ 濱田 拓実さん（富岳通運株式会社）	22
○ 宮城 ユキミさん（鈴与株式会社 / 鈴与カーゴネット株式会社）	24
○ 芹田 ラウルさん（平野ビニール工業株式会社）	26
○ ウルダネタ トリスタン ジョシュアさん（株式会社セイエイ）	28
○ スロエタ ポルタル ジョセフさん（いすゞ自動車中部株式会社）	30
○ 支援機関紹介	32
○ 県内外国人労働者に関するデータ	36

すずき ゆかり 鈴木 アリネ 由香里さん

(スズキ株式会社 海外四輪営業本部四輪アジア部)

1993年(平成5年) ブラジル生まれ、浜松市在住
<業種・業務>製造業、海外支部との渉外
休みの日はジムで体を動かしたり、ゴルフを習っています。
<語学力>日本語(日本人と同等)
英語(TOEIC965点)、ポルトガル語



私の足跡・轍(これまでのキャリア)

- ブラジル マットグロッソ州生まれの日系3世
1歳半で両親とともに来日したため、ブラジルで過ごした幼児期の記憶はほとんどありません。来日後は保育園では日本語、家ではポルトガル語メインの生活を送りながら、卒園後、ブラジル人向けの託児施設でポルトガル語の読み書きを学びました。
- 小3で一時ブラジルに帰国。日本語での勉強に悩む
浜松市内の公立小学校に入学。両親の仕事の都合で、3年生からの2年間ブラジルに帰国しました。帰国時は、ポルトガル語メインの生活でしたが、それよりも現地の生活習慣の違いに戸惑いました。6年生で再来日し、ブラジル人学校で学んだ後、中学校2年生の3学期に浜松市内の公立中学校へ編入しました。
ブラジル人学校では優等生の方でしたが、学習面での日本語の読解に苦戦し、先生から「日本語レベルは小学5年生くらい」と言われ、その悔しさをバネに高校受験に向け猛勉強しました。
- 語学の壁を超え、地元・浜松で大学進学
浜松市の公立高校に入学しました。1年時は通常カリキュラムとポルトガル語が学べるインターナショナルクラスに在籍。高校入学時から大学進学を考えており、地元の静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科に進学しました。大学では、英語を中心に語学力をブラッシュアップしながら国際文化を学び、地元でのキャンパスライフを満喫しました。
- スズキ株式会社入社
就職は第二の故郷である浜松でグローバルな仕事ができるスズキ株式会社を志望。語学力や経験してきた国際感覚が認められ、新卒で総合職として採用されました。入社後は海外人事部に配属され、海外からの研修生や出向者の受け入れを担当。2年後に海外営業部に配属され、現在に至ります。



英語力と国際感覚を活かして3か国間の調整役を果たす。

現在は、海外営業部門に携っており、フィリピン、東ティモール、ミャンマーの四輪市場で、現地法人や生産工場と浜松本社間での輸出入の管理や調整を英語で行っています。

3か国それぞれに事情があり、本社としてうまく調整役を果たさなくてはならないので、お互いの妥協点を探しながらベストな方法を見つけていくのが難しいです。そのような時は上司や先輩への相談を素早く行い、なるべく溜めこまずに解決しています。チーム内では自分から挨拶をしたり話しかけたり、明るいムードになるように心掛けています。

普段の仕事ではお客様の顔が見えませんが、2018年9月のフィリピン出張で、たくさんのスズキ車を見かけた時、関わった商品が実際に異国の地で生活の一部になっていることを誇らしく思いました。

現在の目標は、業務を一人でこなせるようになること。将来、リーダー的なポジションに就くために、いろいろな事を積極的に経験していきたいです。海外赴任など、より広い世界に飛び出していきたいです。



スズキ株式会社 海外四輪営業本部四輪アジア部 星倉周三さん

高い語学力と適応能力が武器。いずれは責任あるポストに！

3か国の調整には高いコミュニケーション能力が求められますが、アリネさんは英語も堪能で、基本的な部分では心配がありません。先輩や上司と相談しながら柔軟に仕事を進めることができ、適応能力が極めて高いです。

将来は、責任あるポストに就くこともあると思いますので、上司としては、チャンスのある場を積極的に提供していきたいです。そのためにも、今やっていることをしっかり身につけてステップアップしてもらいたいです。



よしだ
吉田 ガブリエラ さゆりさん

(浜松いわた信用金庫 磐田本店営業部)

1990年(平成2年) 浜松市生まれ、浜松市在住
<業種・業務>金融業、窓口業務
小学校1年生の子供を育てながら仕事を頑張っています。
<語学力>日本語(日本人と同等)
英語(TOEIC975点)、ポルトガル語



私の足跡・轍(これまでのキャリア)

- 日本とブラジルを行ったり来たり
両親が来日した翌年に浜松市で生まれ、4歳の時に妹の出産を控えた母とブラジルに渡りました。その後、6歳で再来日すると浜松市内の公立小学校に入学。土曜日はブラジル人学校に通い、ポルトガル語の読み書きも習いました。小学生の間は、両国を行ったり来たりして、過ごしました。両国の日常会話や読み書きは身につきましたが、算数などの教科に苦戦しました。
- 浜松市内の公立高校英語学科に進学
再々来日後、ブラジル人学校を経て、浜松市内の公立中学校に編入し、自らの意思で日本の公立高校に入ることを決意しました。進学した高校には帰国子女が多く、自然と英語が身につく環境でした。日本語の勉強も続け、高校2年生の時に日本語検定1級試験に合格しました。
- 地元・浜松で大学進学
「親元を離れたくない」という理由もあり、浜松市内の大学を志望し、合格。大学では言語や多文化について学んだほか、教員免許を取得しました。また、在学中に子供を授かり、家族やいろいろな人に支えてもらいながら学業に励むことができました。
- 浜松いわた信用金庫(旧・磐田信用金庫)に入庫
就職活動中、通訳のアルバイトで手伝っていただいたイベントに、信用金庫のブラジル人スタッフの方がおり、その堂々とした仕事ぶりに感銘を受けました。教職に就くか、一般企業への就職かで迷いましたが、その方への憧れと、地域のブラジル人コミュニティのサポートをしたいという思いから浜松いわた信用金庫を志望しました。入庫後は主に窓口業務を担当しています。



日々成長できる環境で、さらなるステップアップを目指す。

当店にはブラジル人など外国人のお客が多く、中には日本語が話せない方もいらっしゃいます。そのような場合はポルトガル語や英語能力を活かして、私に対応させていただくことが多く、「君がいてくれて本当に良かった」と感謝の言葉をいただくこともあります。

金庫職員の仕事は窓口業務だけではなく、貯蓄だけでなく、保険や投資信託等の取り扱いもあり、金融や法務に関する幅広い知識が求められます。働きながら様々な資格を取得するのは大変ですが、日々成長できる環境にやりがいを感じています。今は、個人情報の取り扱いやマネーロンダリングについて勉強をしています。

職場では周囲からの支えをすごく感じます。大学時代はスポーツをやっていて、みんなの前に立つことが多く、自分にはリーダーシップがあると思っていたのですが、入庫すると頼りっぱなし。先輩を目標に、テキパキと仕事が進められるようになりたいです。語学力を活かしつつ、正職員として国籍関係なく、みんなの期待に応えていけるよう頑張っていきたいです。



浜松いわた信用金庫 磐田本店営業部 次長(お客様担当役席) 松島恵美さん

“外国人だから”で特別扱いしない。

金庫職員である以上、どのお客様にも均等な対応が求められます。そのため、吉田さんがブラジル国籍だからという理由で、特別扱いをしたことはありません。そういう意味で、本人は努力をした事も多いと思います。

吉田さんのいい所は、積極的に物怖じしないところです。語学力はプラスαの能力ですが、ステップアップしてもらいたい部分はまだまだあります。子育てとの両立は大変だと思いますが、頑張ってもらいたいです。



あおき ゆりこ
青木 百合子さん

(株式会社アイデックス 経理総務課)

1996年(平成8年)ペルー生まれ、浜松市在住
＜業種・業務＞運送業、総務担当
両親と妹、弟の5人家族、マイホームで生活しています。
＜語学力＞日本語(日常会話、ひらがな・カタカナ・漢字)
スペイン語



私の足跡・轍(これまでのキャリア)

- 暮らしやすい日本に憧れて、家族で来日
4歳の時に両親と来日し、千葉県市原市に住みました。小学校入学前に習字で日本語を習い、2年生で日常会話レベルまで身に付けました。クラスで自分だけが日本語を話せない状況に、「覚えなければ」という気持ちが強く、成果に結びついたと思います。校内に外国人向けの指導教室があったことも助けになりました。
- 浜松市へ移住、母と二人三脚で猛勉強
小学3年生から、浜松市へ移住。日本語で困ることは少なかったのですが、勉強面では苦労しました。特に小学生のころは、母にも教わろうとしましたが、ペルーの学習とは微妙に違っていたようで、母も困っていました。そのため、母が「公文式」へ通い、そこで学んだことを教わり、復習に役立てていました。
- 大切なことを教えてくれた部活動
高校時代は水泳一色の3年間。自由形の選手として、リレーにも参加しました。9、10月は、プールの水温が12度という中で練習することもあり、私一人なら絶対に休んでいましたが、頑張っている仲間を見て、後に続けました。一緒に練習に取り組んだ仲間との日々や、県大会に出場できたことも良い思い出です。
- 温かな職場に共感し、アイデックスへ入社
高校の紹介で当社を訪れた時、「部品の引っ越し屋さんみたいな仕事」と説明してくれた社長のやさしい人柄や、女性が活躍できる職場環境に共感。どの部署でも温かく迎えてくれて、「この人たちと働きたい」と、入社しました。受付をはじめ、車両管理やメール便の配送などを担当しています。



人や会社の役に立てることに喜びを感じています。

当社が所有するトラックは80台。これらの車両を管理するためには、ドライバーとの協力が欠かせません。燃費データ、日報を忘れずに提出してもらえよう、コミュニケーションを密に取るようにしています。特に大切にしているのは、笑顔とあいさつ。当たり前のようにはしていましたが、あるときドライバーさんから、「元気が出るよ」と言ってもらえました。些細なことでも信頼関係を築ききっかけになるのだと気づき、より気持ちを込めるようになりました。業者さまのトラックの出入りも多く、尋ねられることもしばしば。的確に答えて、「ありがとう」と言ってもらえたときは嬉しくなります。訪れる人が、「受付に聞けば分かるだろう」と思うのは当然のこと。何でも対応できるようにしようと考え、社内で情報を共有するよう、心がけています。

「長く働けば知識や経験が深まり、キャリアアップできる」と、前会長から教わりました。職場には勤続何十年という仕事ができる憧れの女性がいる、少しでも近づけるよう頑張っていきたいです。



株式会社アイデックス 経理総務課 課長 佐原信之さん

素敵な笑顔が社内やお客さまから評判です！

別の部署から頼まれた仕事にも嫌な顔ひとつ見せず、一生懸命取り組む頑張り屋さん。何と言っても笑顔がいいです。お客さまだけでなく、社員に対しても変わらぬ姿勢で、ドライバーさんに「行ってらっしゃい」、「お疲れさまです」とニコリあいさつ。職場を和ませる“花”のような存在です。今後、任される仕事が増えていくかもしれませんが、ますます活躍してほしいです。期待しています。



ば ば み な ぎ 馬場 海凧さん

(株式会社アイゼン 本社工場第一製造部)

1995年(平成7年) ブラジル生まれ、湖西市在住
<業種・業務>製造業、マシンオペレート担当
入籍して、結婚式の準備中、夢はマイホームです。
<語学力>日本語(日常会話、ひらがな・カタカナ・漢字)
ポルトガル語



私の足跡・轍(これまでのキャリア)

- 父の仕事が安定し来日 日本の中学校へ
ブラジルのアマゾン川にほど近い大都市で生まれ育ちました。父がブラジルでの事業をたたみ単身日本に渡りましたが、家族はブラジルで暮らし、小学校時代はサッカーに夢になり、地元クラブチームで活躍していました。父の仕事が安定してきたため、家族で来日して湖西市に住むこととなり、公立中学校へ入学しました。
- 学習教室で子どもたちと読み書きを習う
日本語が全くわからないため、中学校では補習授業を受けました。得意なサッカーが橋渡しとなり、友達と遊びながら、会話ができるようになりました。また、読み書きは、学習教室に中学校3年生まで通い続け、始めは幼稚園の子どもが使っている教材で、順に身に付けていき、漢字まで修得することができました。特に中学校1年生で始めた「公文式」の学習は効果がありました。
- サッカーに熱中、修学旅行では日本文化に感動
仲の良い友人と同じ高校を目指して学習塾にも通い、一生懸命勉強し、地元の公立高校へ進学することができました。サッカー部ではフォワードのレギュラーとして活躍し、浜名湖カップ4位の成績を残しました。また、修学旅行で訪れた京都の寺院は、日本文化に触れられ、とても印象的でした。
- 数学は解き方を考えるのがおもしろい。
勉強では数学、英語、理科が得意でした。特に数学が好きで、この問題をどう解くか考えるのが面白かったです。また、機械の構造を知るのが面白く、高校生の時にはパソコンをばらしたり、組み立てたりしており、将来は、モノ作り関係の仕事に就きたいと考えていました。



後輩たちが先輩の立場で、今まで以上に責任感をもって仕事に臨んでいます。

就職を決める時、アイゼンで働いていたことのある父が、進路指導の先生からもらったリストからアイゼンの名前を見つけ、この会社は環境がいいよと薦めてくれ、就職を決めました。現在は、デジタル制御の最新マシニングセンターを使用して、自動車などのエンジンの核となる部品コンロッドを製作するマシンのオペレートを行っています。材料を寸法通りに加工して、次の工程へつなげていきます。自分の手で何かを作りだすこと、生産に携われているのがうれしいです。この作業に就いて3年目になりだいぶ慣れ、さらに後輩も増え、彼らに見られていると思うと、今まで以上に責任感も出てきました。

プライベートでは結婚を前に日本国籍を取得しました。サーフィンが好きなことから、穏やかな波をイメージさせる海凧(みなぎ)という名に改めました。現在は入籍を済ませ、結婚式の準備を進めているところです。家族もでき、夢は家を建てること。そのためにもお金を貯めたいので、まず、仕事の質を高め、成長して、活躍していきたいです。



株式会社アイゼン 第一製造部 本社生産グループ 課長 松下光弘さん まるでスポンジのように吸収していく、その伸び代に期待も高くなります。

品質第一、加工の精度が求められる現場で、数ミリの違いを感じ取る感性を持っている社員。手先は器用だし、五感を研ぎ澄まして仕事に当たってくれています。後輩たちの良きリーダーとして、班長の下で部下の指導・教育係も担ってくれています。総じてハイレベルな仕事ぶりだと思います。彼の持つ能力を引き出していくのが我々の役目。いろんな工程を経験して、工場全体を把握してくれるようになることを期待しています。



ガブリエルリベロ レイテ ^{つじの}辻野さん

(五條製紙株式会社 動力環境整備係)

1997年(平成9年) ブラジル生まれ、富士宮市在住
〈業種・業務〉製紙業、電気設備・ボイラーの運転及び保守
家族で生活し、一人前を目指して頑張っています。
〈語学力〉日本語(日常会話、ひらがな・カタカナ・簡単な漢字)、ポルトガル語



私の足跡・轍(これまでのキャリア)

- ブラジル サントス生まれの日系4世
曾祖父が山口県出身で、日系4世としてブラジル・サントスに生まれました。
サッカーが大好きな少年としてブラジルで育ちましたが、日本が住みやすいと聞いた両親が来日すると決め、小学校4年で家族とともに来日しました。
- 10歳で来日、富士宮市内の小学校へ
日本語がまったくわからないまま富士宮市内の小学校へ転入しました。ブラジルでポルトガル語版を見ていた同じアニメを日本語で見ることができ、日本語の習得にはアニメがとても役に立ちました。友達と遊ぶことで会話はできるようになりましたが、読み書きができるようになるには時間がかかりました。
- 得意のサッカーで友達づくり
好きなサッカーをすることで、友達ができました。小学校時代は地域のスポーツ少年団に入団してレギュラーになり、大会では、富士宮市で3位になりました。中学生の時、引っ越しましたが、サッカーは部活で続けました。
- 電気への興味から公立の工業高校へ
中学校の理科の授業でオームの法則に興味を持ち、テストの成績もよかったことから電気系を専門的に学びたいと工業高校を志望しました。塾に通って国語を重点的に勉強して受験に備え、公立の工業高校電気科に入学しました。高校でもサッカーを続け、県大会へ出場できたこともいい思い出です。
高校の先生の勧めもあり、五條製紙株式会社に入社しました。



早く一人前と認めてもらえるように。資格試験に向けた勉強も続けています。

高校進学を両親が強く勧めたのは、しっかりと学んで安定した暮らしをさせたいという思いからだと思います。高校で楽しかったことは配線や電気工事の実習でした。五條製紙株式会社は、自分の習ってきたことが活かせる職場ではないかと考え、就職を希望しました。

工場全体の電気設備、ボイラーの保守管理を3人1組のチームで行っていますが、重要なのは問題が起こった時です。工場が止まってしまう事態を早急に解決するため、スピードと正確さが求められ、プレッシャーもかかります。それでも不具合箇所をつきとめ解消することができたときの達成感は、次もがんばろうというモチベーションにつながります。

専門用語が難しいのですが、ボイラー技士・電気工事士の資格取得のために勉強中です。新しい言葉や、気になったこと、注意されたことはすぐに手帳に書き込んでいつでも読み返せるようにしています。経験豊かな先輩を頼りにしていますが、将来は先輩方のようにトラブルに対処できるようになりたいです。



五條製紙株式会社 製造部 工務課 課長 上垣寛生さん

一度言われたことは、繰り返さない。その姿勢には感心します。

応用力が問われるため、10年やらないと一人前にならない仕事です。自分の手に負える問題かどうか判断できるようになり、できることを増やしていてもらいたいです。信頼されるようになれば仕事も任せられます。1回注意したことは2度と繰り返さないところは、評価しています。明るく元気に仕事をしてくれているため、長い目で育てていきたいと考えています。今後の成長に期待しています。



たちばな
立花 チアゴ ミツオさん

(有限会社兼子鉄工所)

1986年(昭和61年) ブラジル生まれ、磐田市在住
〈業種・業務〉製造業、製造・出荷検査担当
トライアスロンやマラソンなどにも取り組んでいます。
〈語学力〉日本語(日常会話、ひらがな・カタカナ・漢字)
ポルトガル語



私の足跡・轍(これまでのキャリア)

- ブラジル サンパウロで3兄弟の次男として誕生
両親は30年前から日本に働きに来ており、幼い頃は父母が不在の生活で、祖母や叔母たちがいる大家族で不自由なく育ちました。しかし、両親がいないのはやはり寂しかったです。小学校まではブラジルで通っていましたが、あまり覚えていません。
- 11歳で、日本にいる父母の元へ
日本での両親の暮らしが安定したため、日本に行くことになりました。当時、両親は兼子鉄工所に勤めており、休みを取って母がブラジルまで迎えに来てくれました。成田空港では、父と兼子社長が出迎えてくれて、うれしかったです。
- 何も分からないまま公立中学校へ入学
来日当初通っていたブラジル人学校が突然閉鎖し、4月から地元の公立中学校へ入学することに。「こんにちは」も分からないまま、日本語で授業を受けることになりテストでは名前だけ書いて提出する状態でした。それでも分け隔てなく、友人達が接してくれたおかげで言葉を覚えることができました。しかし、言葉を覚えても黒板の字が読めず、とにかく書いて字を覚えまし。日本語を習得するまで、3年かかりました。
- 高校へ行きなさいという先生の言葉で進学を決意
「中学で終わってはいけない」という先生の言葉を受け一念発起。浜松市内の公立高校定時制へ進学することができました。部活のサッカーでは定時制の静岡県選抜に選出され、人生の先輩として尊敬できる監督に出会ったことも高校生活の大きな収穫です。身をもって教育の大切さを実感し、今でも勉強を続けています。卒業後、両親と同じ兼子鉄工所に入社しました。



品質に妥協なし。製品をきっちり見極め、プライドを持って出荷しています。

入社後、部品の組立ライン作業からはじめ、経験を重ねるうちに、今では出荷検査の仕事を担当しています。責任の重い仕事ですが、信頼されていることはやりがいにつながります。部品の品質を保たないと、完成後の製品に不具合が生じることになります。そのため、プライドを持って、妥協なく検査をすることを心掛けています。また、従業員にはブラジル人もおり、みんなが日本語を理解できるわけではありません。そのため、従業員全員が理解できるように、品質管理のマニュアルをポルトガル語と日本語の両方で作成しました。

正社員であるため、将来の計画が立てやすいです。将来的には、家族や家を持ちたいと思っています。

また、磐田国際交流協会で日本語を教える活動を手伝っています。正社員になれば、生活も安定するため、みんなに正社員を目指してもらいたいです。正社員になるには日本語は必要だと思います。

地元の消防団にも参加しています。自分を受け入れてくれた地域に、貢献していきたいと思っています。



有限会社兼子鉄工所 代表取締役社長 兼子達治さん

いなければ会社が回らないほど、トップクラスの働きぶり!

妥協なく、製品の品質の高さを求めてくれており、品質は、立花さんの言うことを聞いていれば間違いのないというほど信頼をしています。組立ラインで働いていた10年間で、1つの不良品も出していないことが彼の能力の高さを物語っています。

また、当社はブラジル人従業員が多く在籍しています。みんな真面目で集中力もあり、なくてはならない重要な戦力です。



ルーダス リベロ エドアルドさん

(おかやま内科デイサービス ヘルパー)

1988年(昭和63年)ペルー生まれ、浜松市在住
<業種・業務>介護業、ヘルパー
ヘルパー2級を取得し、現在の業務に邁進！
<語学力>日本語(日常会話、ひらがな・カタカナ・簡単な漢字)、スペイン語、ポルトガル語、英語(片言)



私の足跡・轍(これまでのキャリア)

- ペルー リマ生まれの日系4世
ペルーで生まれ、小学校、中学校、高校を卒業後、プログラマーになるためにコンピュータの専門学校で学んでいました。
- 18歳 大学進学への資金づくりのため来日
ペルーの専門学校でプログラマーになろうと勉強していましたが、いろいろあって来日。すでに親戚が浜松で働いていたため、浜松の工場で派遣社員として働き始めました。家では母国語のスペイン語で会話、工場では外国籍の社員と働くことが多かったため、英語・ポルトガル語での会話が主で、日本語で話をする機会が少なかったです。
- このままではいけないと、日本語を独学で勉強
日本語が分からないため、市役所に行くのにも、病院に行くのにも、通訳の手を借りなくてはならず、日本で暮らすなら日本語を話さなくてはならない、このままではダメだと思い、勉強を始めました。
辞書を買って単語を覚え、浜松国際交流協会で開催されていた無料の日本語教室にも通いました。自分なりに文法などの法則を系統立てて整理し、理解を深めて身につけていきました。
- チラシをきっかけに ヘルパー2級を取得へ
リーマンショックのときに失職。ハローワークで、偶然目にしたヘルパー講座のチラシに興味を持ちました。安定した仕事を得るために、自分の価値を上げるものがあればと考えて、失業保険を受給しながら講座に参加してヘルパー2級を取得、勉強を重ねて、日本語能力試験3級や運転免許証も取得しました。浜松福祉交流センターの紹介で現在の職場に就職しました。



難しいのはコミュニケーション。相手を思う気持ちが大切な仕事です。

リーマンショック後も、そのうち安定してくるだろうと軽く考えていましたが、状況を嘆いて待っているだけでは変わらないと思い、自分から行動し、資格を取得して自信をつけました。

おかやま内科デイサービスでヘルパーとして働いて5年目になり、おじいさんや、おばあさんからも「エドさん」と親しんでもらっています。利用者の方に話す言葉の使い方が難しく、「食べて」ではなく、「召し上がってください」という必要があるなど、最初は苦労しましたが、文化が違うことを理解し、相手の立場を思いやることで、できるようになりました。利用者の方や、職員の方にも信頼していただき、自由に自分の意見も言えるなど恵まれた環境にあると感じています。

障害を持つ子どもたちのサポートにも関わり、事業効率化のためのシステムづくりにも携わっています。これからは日本語能力試験1級や、介護福祉士の国家資格取得も目指していきたいです。日本語ができなくて困っている人のために、将来は日本語の教師もやってみたいと思っています。



医療法人社団もみのおか おかやま内科デイサービス責任者 中村謙吾さん

これから外国籍の高齢者も増え、エド君たちの力がもっと必要になります。

職員の約1割が外国籍の方。ストレートに話す方が多いですが、“あいまいさ”も必要。エド君はそれができ、日本人と外国籍の職員との橋渡し役になってくれています。思いやりや想像力があるから何を求められているのかをくみ取り、それに合わせた動きができる。仕事を任せられるし、調整役もお願いしています。何より利用者の方が会うのを楽しみにしている明るさがいいです。外国籍の利用者の方が増える時代、期待しています。



つちや 土谷 レオナルドさん

(浜松市危機管理監危機管理課事業推進グループ)

1984年(昭和59年) ブラジル生まれ、浜松市在住
<業種・業務>公務、消防士
妻子とともに暮らし、慣れない仕事に奮闘中です。
<語学力>日本語(日本人と同等)
ポルトガル語



私の足跡・轍(これまでのキャリア)

- 国際結婚の両親のもと ブラジルで誕生
日本企業のブラジル支社に勤務していた日本人の父と、ブラジルで生まれ育った母(両親はイタリアとドイツ)との間に誕生。4歳までブラジルで育ち、現地の幼稚園に通いポルトガル語を話していました。日本語は「はとぼっぼ」が歌えるだけでした。
- 4歳 短期滞在のつもりで日本へ
父の事情で2年のつもりで来日。父の郷里でもある浜松に落ち着きました。地元の幼稚園に通い、公立小学校に入学。友達と話すことができるようになって、黒板の字がわからず、3年生になる頃、やっと理解できるようになりました。ブラジルに帰るつもりだったため、家庭では日本語禁止。ポルトガル語教室に通っていました。父の仕事の都合により、小学校では浜松市内で3度の転校を繰り返しました。
- 小中高と友情を育ててくれたバスケットボール
地元のスポーツ少年団でバスケットボールをやっていたため、転校を繰り返しても、転校先に知り合いがいて助かりました。中学校でもバスケットボール部に所属、全国大会で負けたことが悔しくて、高校はバスケットボールの強豪校への進学を希望。志望校を決める際に、自分の気持ちが固まるまで待ってくれた先生には、感謝しています。
- デザインを学ぶ専門学校へ進学
バスケットボールと同じくらい興味を持っていたのが美術。将来はデザインの仕事を希望していましたが、高校でもバスケットボール三昧。
卒業後は、「高度専門士」が取得できる4年制の専門学校に進学。夏冬の長期休暇も少ない専門学校で、デザインをみっちり学びました。



あきらめきれなかった消防士の夢を実現するために26歳で転職しました。

大手自動車メーカーのデザイン部門で安定した生活を送っていましたが、9.11 テロで活躍していた消防士へのあこがれが捨てきれず、消防士試験の年齢制限ギリギリの26歳で挑戦し、合格。火災予防活動がメインで、思っていた消防士像と異なり悩んだこともありましたが、利潤を追求するのではなく、困っている人を純粋に助ける仕事に誇りを感じるようになりました。

30歳で参加した意見発表会で、消防活動に対するアプリの積極的利用について発表を行い、支部代表として全国2位の優秀賞を受賞。外国人と円滑に話すための翻訳アプリを例に出しましたが、GPSなども利用した消防独自のアプリの開発ができればいいなと思っています。

現在は消防署から離れ、市の危機管理課で防災訓練に携わり、多方面との調整や自主防災隊への啓発活動を行っています。消防署では経験できないこの時間を今後の消防士人生に活かしていきたいです。

頑張れば夢は叶うので、ブラジル出身の子たちも夢に向かって努力してほしいです。



浜松市危機管理監危機管理課 事業推進グループ長 石原徹也さん

誰とでも親しく接することができるコミュニケーション力は、彼の強み。

消防業務と防災業務は似ているようで異なるため、最初は戸惑ったと思います。市全体の防災の動きを把握することは、消防局へ戻ってからも大いに役立つはず。災害時には他市とも連携が必要なため、実働部隊である消防のスキルを活かしてくれることを期待しています。責任感をもって仕事に臨んでおり、明るく親しみやすい人柄で、人々とのコミュニケーションづくりに優れています。

